イタリア、ローマでクラウディオ・ガッティ司教が司式したミサ中に起こった聖体奇跡



歴史：

2000年6月11日、聖霊降臨祭の日、「聖体の母」教会で私が聖ミサを司式しているときに、偉大な聖体奇跡が起こりました。

パンの奉献の言葉を唱え終えたばかりのとき、私の聖体から血が流れ出し始めました。

その瞬間、私にとって時間が止まったようでした。私は両手で握った聖体に身をかがめ、その表面の大部分に広がる神聖な血を見つめました。

私は動かずにいました。その時間は、居合わせた人々には果てしなく長く感じられたようで、彼らは私の顔に驚くほどの青白さと強い紅潮が交互に現れるのを見て、私が気分が悪いのだと思ったのです。

少し落ち着きを取り戻したとき、私はゆっくりと聖体を高く掲げました。

居合わせた人々の間には大きな感動が広がりましたが、すべては深い黙想と熱心な参加の雰囲気の中で行われました。

血に染まった私の聖体を下ろすとき、聖体皿の中にさらに2つの大きな聖体があるのを見ました。後に「聖体の母」が語ったところによると、それらは冒涜から救い出され、奇跡の場所に運ばれたものでした。なぜなら、「司教、預言者、そして共同体の人々が聖体を非常に愛し、それを守るために命を捧げる覚悟ができているから」だそうです。

葡萄酒の奉献の言葉を唱え、聖杯を掲げた後、私は血に染まった自分が奉献した聖体と、冒涜から救われた他の2つの聖体が入った聖体皿を取り、教会のベンチの間を通りました。それは、居合わせた人々が近くでそれらを見、真実を確認し、血に染まった聖体から発する香りを感知し、将来この奇跡を証言できるようにするためです。

「パンの分割」を行ったとき、血は居合わせた人々の目の前で滴り続けました。残念ながら、ミサ典書に記載された聖ミサの執行に関する第4章113-116の規範に従い、私は血に染まった自分の聖体を食べなければなりませんでした。[1]

聖体拝領の際、私はイエスの血の甘い味を感じ、内側を満たす強い熱と濃厚な香りを覚えました。

この最後の偉大な聖体奇跡によって、神はこれまで教会の偉大な人々に拒絶されてきたすべての奇跡に印を押されました。彼らは、イエス、マリア、聖人、天使たちが奇跡の場所に運んだ聖体を奉献した司祭の名前を知ろうとしました。

ヨハネがイエスの刺された脇腹から血と水が流れ出るのを見たように、神によって叙階された司教である私、預言者マリサ・ロッシ、そして多くの人々が、私が奉献した聖体から血が流れ出るのを見ました。そして使徒の言葉を繰り返すことができます。「これを見た者が証言し、その証言は真実であり、彼は真実を語っていることを知っている。あなたがたが信じるためである。」（ヨハネ 19:35）

[1] ローマ・ミサ典礼書の総則、1975年の第2典型版；2002年の第3典型版と混同しないようにしてください。第3典型版は段落の番号付けが全く異なります。


















